

2026

4

# ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

\*\*\*

芙貴子ワールド／松本芙貴子  
偶然の糸を遊ぶ【22】

\*\*\*

涼さんぽ／橋本涼  
涼さんのにぎわいホビ～【11】

\*\*\*

ショートショート【6】／鏡マリコ  
荒牧建二作品から

\*\*\*

私のセレクト【2月号から】  
松本芙貴子

# NILE CAMPUS



322

伯梅閑話 — 子供の心のまま —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

小学生のとき、講談に夢中になった六代目神田伯龍は、生涯、その心のままだったのではないかと思う。

二〇二六年二月四日放送の「いまからサイエンス」という番組を見た。その番組での東京大学定量生命科学研究所の奥山教授言葉からの私の受け止めを書く。一九八七年、ノーベル生理学賞・医学賞を日本人で最初に受賞した利根川進博士に師事した奥山輝大教授によれば、年齢が上だと感じさせないような柔らかい思考の方であるという。飽くなき探究心で論文を出すことに飽きない。通常、研究の初めはエキサイティングになるが、落ち着いていく。だが、利根川教授はいつも大興奮して研究に取り組み、論文を書く。純真に子供心のままにサイエンスに向かっていったという。

伯龍を思い出した。庭の花が咲いたと興奮し、私に「見て」と言う。明けましておめでどう今年もよろしくを「アケオメ・コトヨロ」という言い方が流行ったときは、いろいろな言葉を四文字にして言ってみていた。あるとき、歩行が不自由なために二本の杖を突いて歩いている方を見かけた。講談に出てくる言葉、「両杖を突く」の実際を初めて見たらしく興奮していた。講談の舞台となった場所にドライブすると喜んだ。いつも、講談のことばかり考えていたのだろう。おそらく、講談に夢中になった小学生の心のまま、講談に向かっていたのではないか。利根川教授がサイエンスに大興奮していたように。

聞く方は、感動して声も出ない状態であったとしても、伯龍は自分の講談に満足することはなかったと思う。どんな芸も、現在の自分に満足した時が後退の始まりだからだ。世の中はどんどん変わるし、聞き手も変わる。昔の芸人の高みを大事にした伯龍だが、好きな色は「グリーン」。それも、黄緑に近い明るい緑だった。